

《創成科学研究科 博士前期課程 臨床心理学専攻》

- ・トランスファラブルスキルに特に強く関連する必修科目には◎、関連する必修科目には○、トランスファラブルスキルに関連する選択科目（アドバンスプログラム）には●を記入する。

| 科目名 | | 教育上主要な科目 | ディプロマ・ポリシー | | | 科目の教育目標 | |
|---|--------------|----------------------------|---|---|---|---|---|
| | | | 【1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力】 臨床心理学の諸分野における高度な専門的知識と汎用的知識、関連領域における幅広い知識と論理的思考力、総合的かつグローバルな視点を備え、臨床心理学の諸分野において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え、心の健康の回復と保持増進に係る専門的な職業（臨床心理士）に従事できる高度な能力を有する。 | 【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性・理性及び感性が調和し、自立して行動できる。 | 【3. 国際的研究発信力及び社会貢献】 地域社会において生じている心の健康の諸問題を臨床心理学の観点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、心の健康の回復と保持増進に貢献できる能力を有する。 | | |
| 研究科 研究科基盤教育科目 グローバル教育科目群 研究科共通科目 イノベーション教育科目群 必修科目 | 研究科基盤教育科目 | データサイエンス | ○ | ◎ | ○ | 1. データの性質を見極め、データから課題解決に役立つ情報を抽出できる 2. データに基づいて問題を考察し解決するプロセスを体験する 3. 専門の異なる人と協働して問題解決できる | |
| | グローバル教育科目群 | 国際協力論 | | ◎ | ○ | ◎ | ・文化を異にする地域に技術移転する際には、その技術を受容する社会の文脈理解が必要であることを理解する。 ・グローバルな状況のなかで技術を社会実装する際に必要な社会科学的知識やスキルを身につける。 |
| | | グローバル社会文化論 | | ◎ | ○ | ◎ | ・グローバル社会に対応できる国際的な視点を身につけている。 ・グローバル化社会の課題について理解している。 ・グローバル化する文化について理解している。 |
| | | グローバルコミュニケーションA | | ○ | ◎ | ◎ | ・世界の人が第二言語としての英語を用いてどのようにコミュニケーションを行っているかを学ぶと同時に、ネット上でボーダーレスに世界にむけて英語で発信するための自信をつける。 ・グローバル化した社会において、変化する社会や活動の場を求めて、知識や世界の人々と協働するためにネットワークをつくる重要性を理解する。 |
| | | グローバルコミュニケーションB | | ○ | ○ | ◎ | 1. 世界の先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、国際的な技術動向や科学の実について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を英語で理解し、英語による表現力やプレゼンテーション力を深める。 |
| | | グローバルコミュニケーションC | | ○ | ○ | ◎ | 1. 先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、外国の技術動向や産業の実情について理解を深める。 2. 先端技術・科学に関する専門的内容を理解し、英語によるコミュニケーション力を身につける。 |
| | イノベーション教育科目群 | 科学技術論A | | | ○ | | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論B | | | ○ | | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論C | | | ○ | | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論D | | | ○ | | 1. 自らの専門とは異なる分野の問題の所在を説明できる。 2. 自らの専門とは異なる分野の問題について解決へのアプローチや評価の仕方を説明できる。 |
| | | 科学技術論E | | | ○ | | 1. 技術・科学に関する最新研究の知識を英語で習得する。 2. 異なる分野の問題の所在と、その解決へのアプローチを理解する。 |
| | | ビジネスモデル特論 | | | ○ | | 1. 技術や資源を活用したビジネスモデルの基礎的知識を習得する。 2. ビジネスプランを作成し、その内容を伝える能力を習得する。 |
| | | 地域企業エクスターンシップ | | | ○ | | 県内企業の業界・業種・職種の存在や魅力を知り、その企業の魅力や特徴を自身のキャリアに対する考え方と関連させて論じることができる。 |
| | | 実践型地域インターンシップ | | | ○ | ○ | ①職業人としての自覚と責任を実感し、地域社会の牽引役として課題に臨む意識を身につける。 ②職場はもとより異業種の人々や他者との関係を構築し、リーダーシップを発揮してプロジェクトを完遂する。 |
| | 必修科目 | 臨床心理学特論A ※ | ○ | ◎ | ○ | ○ | 1. 臨床心理学の基礎理論を説明できる。 2. 臨床心理査定の際、数種の査定方法について具体的に説明できる。 3. 臨床心理学的援助技法の概略、数種の援助技法について具体的に説明できる。 4. 臨床心理学的地域援助技法の概略について説明できる。 5. 様々な心理臨床の現場とその実践の独自性について説明できる。 6. 臨床心理士の専門性と倫理について理解する。 |
| | | 臨床心理学特論B ※ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | 1. 臨床心理学の独自性・専門性を近接領域との比較を通して説明できる。 2. 臨床心理学の独自性・専門性を心理臨床の場で生かせるようになる。 3. 臨床心理学における他職種との協働について説明できる。 4. 心理臨床家としての倫理について説明できる。 |
| | | 臨床心理面接特論A(心理支援に関する理論と実践) ※ | ○ | ◎ | ○ | ○ | 様々な心理療法理論に基づく心理面接の基礎的知識とその実際についてイメージし、説明することができる。心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について提案できる。 |
| 臨床心理面接特論B ※ | | ○ | ◎ | ○ | ○ | 個別臨床心理面接の受理から終結にいたるまでの一般的な流れについて説明できる。 | |
| 臨床心理査定演習A(心理的アセスメントに関する理論と実践) ※ | | ○ | ◎ | ○ | ○ | 1. 心理査定法の基礎理論を説明できる。 2. 質問紙法、発達検査と神経心理学と生理心理学に基づくアセスメントについて説明できる。 3. 質問紙法、発達検査と神経心理学と生理心理学に基づくアセスメントを実施できる。 4. 質問紙法、発達検査と神経心理学と生理心理学に基づくアセスメントの結果を出すことができる。 5. 質問紙法、発達検査と神経心理学と生理心理学に基づくアセスメントの結果を分析できる。 6. クライアントの状態に適した心理査定を検討する能力が持つことができる。 | |

| 科目名 | 教育上主要な科目 | ディプロマ・ポリシー | | | 科目の教育目標 | |
|------------------|--|--|--|--|--|---|
| | | 【1.学識、研究能力及び高度専門職業能力】 臨床心理学の諸分野における高度な専門的知識と汎用的知識、関連領域における幅広い知識と論理的思考力、総合的かつグローバルな視点を備え、臨床心理学の諸分野において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え、心の健康の回復と保持増進に係る専門的な職業(臨床心理士)に従事できる高度な能力を有する。 | 【2.豊かな人格と教養及び自発的意欲】 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性・理性及び感性が調和し、自立して行動できる。 | 【3.国際的研究発信力及び社会貢献】 地域社会において生じている心の健康の諸問題を臨床心理学の観点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、心の健康の回復と保持増進に貢献できる能力を有する。 | | |
| 専攻専門科目・教育クラスター科目 | 臨床心理査定演習B ※ | ○ | ◎ | ○ | 1. 投影法に関する基礎的な理論について説明できる。 2. 代表的な投影法検査について説明できる。 3. 代表的な投影法検査について実施・解釈を行い、それらを臨床現場で活用できる。 | |
| | 臨床心理基礎実習A ※ | ○ | ◎ | ○ | 学内外での心理臨床活動を行うに先立って、臨床心理学的サービスを効果的に行うための基礎的技術を身につける。特にクライアントの語りを傾聴し、適切な応答ができるための能力を習得する。 | |
| | 臨床心理基礎実習B ※ | ○ | ◎ | ◎ | 学内外での心理臨床活動を行うに先立って、臨床心理学的サービスを効果的に行うための基礎的技術を身につける。特に基礎実習Bでは、より実践に近いかたちでの訓練を行うことで、臨床心理面接をより効果的に行うための能力を身につける。 | |
| | 臨床心理実習A(心理実践実習Ⅱ) ※ | ○ | ◎ | ○ | 1. 事例の見立て、心理査定(アセスメント)ができる。 2. 個別事例の報告書を作成できる。 3. 全体討論もしくはグループ討論に参加し、議論ができる。 4. 全体討論もしくはグループ討論で自分の考えを論理的に述べるができる。 | |
| | 臨床心理実習B ※ | ○ | ◎ | ◎ | 1. 学外実習施設での実習目標を立てることができる。 2. 学外実習施設の概要を説明できる。 3. 学外実習施設での臨床心理士の役割を説明できる。 4. 実習報告書を作成できる。 | |
| | 認知心理学特論 | | ◎ | | ◎ | 認知心理学の理解を深め、認知心理学に関連するキーワードを列挙・説明できる。 認知機能の障害によって生じる問題を把握し、その解決法の提案ができる。 |
| | 心理学研究法特論(認知心理学) ※ | | ◎ | | ◎ | 認知心理学における知見の理解を深め、用語を説明できる。 得られた知見と臨床との関連を考察し、臨床への応用を提案できる。 |
| | 生涯発達心理学特論 ※ | | ◎ | ○ | ◎ | 1. 生涯発達の過程におけるさまざまな発達課題が説明できる。 2. 生涯発達の過程における心理臨床的問題が説明できる。 3. 心理臨床的問題に対して心理臨床家として、どのような支援ができるかを考えることができる。 |
| | 社会心理学特論 ※ | | ◎ | | ○ | 抑うつや不安、健康など心理臨床的テーマに関する社会心理学的知見について説明できる。 産業・組織領域における知見とそれに基づく支援技法について説明できる。 |
| | 精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開) ※ | | ◎ | ○ | | 医学全体における医学心理学の占める位置と役割を説明できる。 人間、社会、文化と現代医療の関係を説明できる。 医療技術と患者の心理について説明できる。 心理的発達の基本を説明できる。 精神力動と精神療法(カウンセリング、認知療法、音楽療法など)の基本を説明できる。 脳局在機能と心の関係について説明できる。 心身相関の基本を説明できる。 |
| | 障害臨床心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) ※ | | ◎ | ○ | ○ | 1. 障害者の生活全般に関して、臨床心理学の立場、そして心理支援という視点から理解する。 2. 当事者やその家族等のみならず地域社会や教育、福祉、保健・医療、労働等との関係性における障害児・者支援について、理解する。 |
| | 心理療法特論 ※ | | ◎ | ○ | | 1. 精神力動的心理療法および認知行動療法の基礎理論や介入法について説明できる。 2. 多様な心理臨床現場で、より適切な臨床心理学的サービスを選択できる。 |
| | 臨床心理的地域援助特論 ※ | | ◎ | ○ | ○ | ・危機理論を理解し、典型的な事例に対し、危機介入を適用できる。 ・予防理論を理解し、一次予防の典型的な事例に対し、予防的介入を適用できる。 ・予防理論を理解し、三次予防の典型的な事例に対し、予防的介入を適用できる。 |
| | 学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開) | | ◎ | ◎ | ○ | 教育場面における心理的支援の役割と限界を理解し、個々の事例に対し多角的な視点からの支援が行えるようになることを目標とします。 |
| | 犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) ※ | | ◎ | | | 司法・犯罪分野における心理学の専門的知識を習得するとともに、司法・犯罪の各分野における様々なケースや問題に対して、心理学がどのように寄与しているのかについて理解を深める。 |
| | 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | | ◎ | ○ | ◎ | (1)労働者に対するメンタルヘルス相談・援助や研修等を行う知識を説明することができる。 (2)労働者に対するメンタルヘルス相談・援助や研修等の計画立案および実施ができる。 (3)組織・労働現場のメンタルヘルス対策の活動に参画できる。 (4)労働環境の改善や労働者のパフォーマンスの向上に役立つ知識・技術を提供できる。 |
| | 家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) | | ◎ | ○ | | ・親面接の基本を理解し、典型的な事例に対して、ケースフォーミュレーションができる。 ・夫婦面接の基本を理解し、典型的な事例に対して、ケースフォーミュレーションができる。 ・集団面接の基本を理解し、典型的な事例に対して、ケースフォーミュレーションができる。 |
| | 心の健康教育に関する理論と実践 | | ◎ | | | 1 学生は心の健康教育に関する理論を理解している。 2 学生は心の健康教育を実践できる。 |
| | 心理実践実習Ⅰ ※ | | ◎ | ○ | | 1. 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の特徴を説明できる。 2. 電話受付の技法を身につける。 3. ケースの受付から受理に至る一連の流れの実際を説明できる。 |
| | 心理実践実習Ⅲ ※ | | ◎ | ○ | | 1. 受理面接(インテーク面接)方法を理解し、実践できる。 2. 利用者の心理状態を観察し、その結果を分析、見立てができる。 3. 必要な心理アセスメント(心理査定)を実践できる。 4. 心理面接目標を立て、心理面接を継続できる。 |
| 心理実践実習Ⅳ ※ | | ◎ | ○ | | 1. 保健医療分野の1つであるメンタルクリニックにおける心理師の果たす役割を説明できる。 2. 保健医療分野の1つであるメンタルクリニックにおける心理師の技法を説明できる。 3. 保健医療分野の1つであるメンタルクリニックにおいて心理師と他職種との連携について理解し、説明できる。 4. 保健医療分野の1つであるメンタルクリニックにおいて心理師が地域でどのような連携ができるかを理解し、説明できる。 | |

| 科目名 | | 教育上主要な科目 | ディプロマ・ポリシー | | | 科目の教育目標 |
|-------------------|------------------|----------|---|---|--|--|
| | | | 【1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力】 | 【2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲】 | 【3. 国際的研究発信力及び社会貢献】 | |
| | | | 臨床心理学の諸分野における高度な専門的知識と汎用的知識、関連領域における幅広い知識と論理的思考力、総合的かつグローバルな視点を備え、臨床心理学の諸分野において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え、心の健康の回復と保持増進に係る専門的な職業(臨床心理士)に従事できる高度な能力を有する。 | コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性・理性及び感性が調和し、自立して行動できる。 | 地域社会において生じている心の健康の諸問題を臨床心理学の観点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、心の健康の回復と保持増進に貢献できる能力を有する。 | 科目の教育目標 |
| | 心理実践実習Ⅴ ※ | | ◎ | ○ | | 1. 保健医療分野での心理師の意義、役割、責任を理解し、説明できる。 2. 福祉分野での心理師の意義、役割、責任を理解し、説明できる。 3. 教育分野での心理師の意義、役割、責任を理解し、説明できる。 4. 保健医療分野での心理師と多職種連携、地域連携について理解し、説明できる。 5. 福祉分野での心理師と多職種連携、地域連携について理解し、説明できる。 |
| | 心理実践実習Ⅵ ※ | | ◎ | ○ | | 1. 保健医療分野での心理師の意義、役割、責任を理解し、説明できる。 2. 産業分野での心理師の意義、役割、責任を理解し、説明できる。 3. 司法分野での心理師の意義、役割、責任を理解し、説明できる。 4. 保健医療分野での心理師と多職種連携、地域連携について理解し、説明できる。 5. 産業分野での心理師と多職種連携、地域連携について理解し、説明できる。 |
| 教育 (他専攻) 科目 | 防災・危機管理クラスター | | ○ | | ○ | 防災・減災関連技術など社会のリスク管理に関連した基礎知識を習得する。 |
| | メディカルサイエンスクラスター | | ○ | | ○ | 理学・工学の知識を医学・医療現場に展開するための基礎知識を習得する。 |
| | ロボティクス・人間支援クラスター | | ○ | | ○ | 福祉・介護ロボットや生産技術・流通・計測ロボットなどロボット関連技術につながる基礎知識を習得する。 |
| 学位論文指導科目 | 臨床心理学特別演習 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | 修士論文作成に必要な能力を養成する |
| | 臨床心理分野横断セミナー | ○ | ◎ | | ◎ | ◎ |

備考 授業科目欄の※印の授業科目は、専門科目のみの授業科目を示す。